

いしかり むこのたみぞう
石狩一無辜の民像

この像は著名な彫刻家、本郷新（1905～1980）が製作し、昭和53（1978）年10月、北海道に寄贈したブロンズです。本郷氏は石狩市をこよなく愛し、この像を北海道開拓の原点ともいう石狩川河口のハマナスの咲き乱れる荒涼とした砂丘の上に建てることを強く希望しました。また像は昭和45（1970）年の「無辜の民シリーズ」15点の連作の一つ「虐げられた人（1）」と同型のもので、昭和46年、箱根彫刻の森美術館主催の第2回現代国際彫刻展に出品された、本郷の代表作の一つです。



「無辜の民」とは「何の罪もない人々」の意味です。台座は船の形をしていますが、へ先側に「石狩 開拓者慰霊碑」のプレートがはめ込まれ、船尾側には「この地に生き この地に埋もれし 数知れぬ無辜の民の霊に捧ぐ 1974年 本郷新」と刻まれています。

長さ約3mで体を布でがんにがらめにされ、自由を奪われた悲惨な無辜の民の姿をかたどっています。

本来、寄贈の翌年、昭和54（1979）年のハマナスの花の咲く頃に除幕される予定でしたが、台座の建設など予算ねん出方法の行き違いから、当時の石狩町、北海道、さらには製作者も巻き込み誤解が生じました。その後、町文化協会、ライオンズクラブ、観光協会ほか町内会、有志による活動の結果、建設資金の手当てや誤解が解かれ、昭和56（1981）年6月30日、快晴の空の下、除幕にこぎつけることができました。

（石橋孝夫）

| | |
|-----|-------------|
| 作者 | 本郷 新 |
| 完成年 | 昭和46(1971)年 |
| 材料 | ブロンズ |
| 高さ | 100cm |
| 幅 | 320cm |
| 奥行 | 230cm |

- (1) 札幌芸術の森美術館・札幌彫刻美術館（2005）本郷新展：生誕100年（図録）、札幌彫刻美術館。
- (2) 石狩市郷土研究会（1988）石狩の石碑第二輯、石狩市郷土研究会。
- (3) 三上正一（2004）石狩市の野外彫刻、石狩ファイルNo.23。